

# 新潟市若者支援センター設置の経緯

## 1 設置の背景

全国的な状況として、若者無業者（いわゆるニート）は34歳以下で約64万人（平成22年度総務省統計局調べ）、ひきこもりが約70万人、ひきこもった人の気持ちがわかるという「ひきこもり親和群」が150万人いるといわれている（平成22年7月内閣府「ひきこもりに関する調査」）。また文部科学省の調べでは高校中退者が、年間約7万人に達しているとの報告もある。

こうした若者たちを、一般には「最近の若者は本当に意気地がない。だらしがない。」とみる見方があるが、実際の若者たちは、「家族に申し訳ない」「集団に溶け込めない」「他人がどう思っているか不安」など、生きることに辛さや苦しさを抱えている。

こうした若者たちへの支援の場は、学校教育を終えたのち特に少なくなっているのが現状であり、15歳以上の若者たちの相談の場、安心して過ごすことができる居場所、社会的自立・職業的自立に向けた学習機会の提供、そして、若者を様々な形で支援する人材の育成が求められている。

## 2 設置の目的

こうした中、国では、平成21年7月1日に若者を支援する目的をもった法律「子ども・若者育成支援推進法」の法案を国会で成立させ、平成22年4月1日に同法を施行した。

本法律は、若者を支援する様々な関係機関・団体による「支援協議会」の設置を努力義務とし、「支援協議会」を運営する核となる支援センターの設置の必要性も謳っている。

## 3 設置前の取組み（平成21年度～平成22年度）

### 【21年度】

- ・「若者の意識に関する調査」実施  
15歳以上30歳未満の2,500人の市民を対象。若者の自立に関する実態などを把握した。
- ・「子ども・若者支援有識者懇談会」  
困難を抱える若者の状況認識と今後の支援のあり方について検討した。  
平成21年12月4日から平成22年2月9日（3回開催）

### 【22年度】

- ・「子ども・若者自立、立ち直り支援事業検討委員会」  
具体的な若者支援の方策、支援協議会などの組織の形態、人材育成のあり方について検討した。  
平成22年7月22日から5回
- ・「子ども・若者立ち直り支援プロジェクトチーム」  
相談シート、居場所マニュアル、事業のプログラムについて作成の検討をした。  
平成22年8月23日から10回
- ・「子ども・若者立ち直り支援庁内関係課・機関会議」  
若者支援に関する周知、共通理解のために開催した。  
平成22年6月30日から5回
- ・「若者の自立・立ち直り支援講座」  
若者支援センター設置に向け、様々な若者を支援する人材を育成する講座を開催した。  
平成23年2月5日から（毎週土日、合計32時間、他に実習あり）  
受講者：40人
- ・「新潟市子ども・若者支援フォーラム」開催  
これまでの成果と今後の若者支援の方向について、多くの市民に広く広報した。  
平成23年2月26日（会場：万代市民会館）  
参加者：280人

これまでの検討の  
結果を受けて

## 4 新潟市の取り組みの方向

新潟市の若者支援の方向は・・・

- 教育、福祉、雇用等における組織の縦割りを超えた支援のネットワーク（支援協議会）づくり
- 対象は、概ね15歳から39歳までとする（義務教育後の支援体制を充実）
- 若者の一人ひとりの悩みに応じた最適な相談機関の紹介と丁寧なつなぎ役を務める
- これまでの青年の家の機能を生かしながら、あらゆる若者の様々な課題を解決（若者同士が相互に関わり合いながら自立し、社会参加・社会参画を果たす仕組みづくり）
- 若者みんなが安心して過ごせる居場所の設置
- 若者支援に取り組む地域の人材の育成
- 最終目標は、若者が自分に自信をもち、社会性を身に付け、夢や目標に向かって動き出すこと。

## 5 設置後の取組み（平成 23 年度～）

### 【23 年度】

- ・「センター愛称募集」  
センターを親しみやすくするため、愛称の募集を実施した。  
募集期間：平成 23 年 3 月 28 日～4 月 15 日、選考委員会 4 月 27 日。  
応募点数 77 点から「オール」に決定。愛称を使用した親しみやすいパンフ、HP の作成。
- ・「若者支援センター支援委員会」  
若者支援センター立ち上げと円滑な運営のための会議を開催した。  
平成 23 年 5 月 9 日から 6 回。
- ・「センター会議」開催  
職員同士（青少年室職員とセンター職員）で課題を検討し、方針を協議する会議を開催した、23 年度中 10 回。
- ・「第 1 期新潟市ユースアドバイザー」を委嘱  
「若者の自立・立ち直り支援講座」の受講生を「第 1 期新潟市ユースアドバイザー」として 32 名を委嘱。  
平成 23 年 6 月 8 日（水）
- ・「新潟市若者支援センターオール」を設置  
オープニングイベント開催。平成 23 年 6 月 18 日（土）10:00～14:00  
愛称受賞者感謝状授与：伊藤希代子さん トークライブ、若者団体ステージ発表、若者支援団体出店ブース
- ・「新潟市若者支援協議会」の設置  
支援団体のネットワーク形成のために設置した。51 機関・団体。平成 23 年 8 月 11 日。  
関連機関や NPO などの関連団体との連携による若者の課題解決の場。  
関連機関による個別検討会議を開催し困難な事例の解決。
- ・「平成 23 年度新潟市ユースアドバイザー養成講座」の開催  
若者支援センター「オール」で若者を支援する人材を育成するために開催。  
平成 23 年 9 月～12 月（月 1 日、合計 24 時間、他に居場所実習あり）受講者：39 人
- ・「教育フォーラム」の開催  
若者支援センター「オール」の周知、市民へ若者支援の理解を得るために開催。  
平成 23 年 10 月 1 日（土）参加者：450 人
- ・「第 2 期新潟市ユースアドバイザー」を委嘱  
「ユースアドバイザー養成講座」受講生を 32 名委嘱。  
平成 24 年 1 月 25 日（水）
- ・「オール春の祭典」を開催  
若者へ「オール」の周知のために「オール春の祭典」を「よろっ to ローサ」で開催  
平成 24 年 3 月 20 日（火）13:00～15:30

### 【24 年度】

- ・「若者支援センター評価・支援委員会」  
若者支援センターの評価方法について協議し支援する会議を開催。  
平成 24 年 5 月 31 日から 5 回。
- ・若者支援センターシンボルキャラクター「オールちゃん」を作成  
センターを親しみやすくし、居場所に集う人が増えてほしいという願いを込めて若者たちが作成。  
平成 24 年 6 月 14 日（木）完成
- ・居場所を中心に「リニューアル」を行い、新しいリーフレットを作成  
平成 24 年 7 月 2 日（月）
- ・「平成 24 年度新潟市ユースアドバイザー養成講座」  
新潟市ユースアドバイザーのスキルアップと新たな支援者を養成するために開催。  
第 3 期ユースアドバイザーを育てるための「新潟市ユースアドバイザー養成講座」の開催。  
平成 24 年 9 月～12 月（月 1 日、合計 24 時間、他に居場所実習 4 時間、計 28 時間）受講生：78 名
- ・「こいがた若者自立応援ネット」のリーフレットを作成  
困難を抱える若者を早期発見し支援するために（高校中退者支援）、新潟市若者支援センター、新潟地域若者サポートステーション、新潟市ひきこもり相談支援センターが中心となり、連携した支援ネットワークを構築した。
- ・「第 3 期新潟市ユースアドバイザー」を委嘱  
「新潟市ユースアドバイザー養成講座」受講生（78 名）のうち、レポート審査を行い、50 名委嘱した。